チ 13
3799

チ13
3799

周十郎七世孫序

太山不讓土壤故能朱其大河海不擇細流故能就其深君子名人
孔道之所由白猿常仁人之懷齊
乃紋之曾子三省之禄彫弧蓋師
彫弧五百歲の妙峰小系居士
暫く師の素袍勅換素貌昌清

自ら拔き相撲と祝く滑稽小栗と
名寺の鎖もまさぬ花ハ関羽が髭
懐孕成慎今宇百小母の書と遊民の
徳を子帝と再戦湯ハ成田屋を頌
茶臺小意怒の相と現ともつ百
愛敬と面白野仕後ハ不動と次
大百本合給ハ唐土天竺ゆも母兵

富士山王ハ是ハ福牡丹ハ柳
ハ勢ハ八美ハ戸ハ大の酒ハ富
鯰あまぢハ雲ハ稲妻鳴神とも
野晉人四方鼎眉なとも紫の田舞
雲くかの助ハ重扶和合ハ
戚歌江戸橋の玉ハ毛
辮ハ尻馬ハ毛の毛打

百年来の桃侯と古脊松恵の二老を
保兒浦のかの名医うめうの孫
箱かつけく七母ゆ孫やきの十九乃
国十五ふ賜て工藤もく墨流をまこ
まこと春も見くもつまいとの孫なり

東都滑稽作者
立川談洲楼馬遊

えのを呼ぶもこと
語お古今三百年の傳

政名

自得菴

花咲翁

うこの
ちの音は

天地乾坤と

今より待て梅の顔見物

之優人の浦いちゝ川ときゝ〳〵才牛東
弱茶のおさちとゑる陸子百年のゑ
の筋とぐこゑる代の国さんとゑを
白猿ぬしの拍ゑうびきく

四方歌垣実顔

市川の清れゑゑゑあゑとゑゑ
むゝ世しのぢゑハ山之

百年まもなく法をも寿と　美亀亭
名をうる一段の鯉のあつめ　江戸住

唐人もうるおう家の牡丹漑　鹿杖亭
ぐうんハ花の留主所もち　菱彼

人和の痕積ともなりし
海光の七世の孫太郎中　山陽堂

人和の山より出てきまつ
七世のさかのとをり　森羅亭

百とせに一とせすくなき寿を　年竹庵
結て先祖の名をつくもかな　甚童

さくらあと七世の孫の酒剰ハ　弥生庵
はく浦面う秘玉多来　雛丸

こゝろそてみうら時はるを　清猷館
ふるさとあうる百ゝ為田孤　倉定

宝永のむかしかな世中ゝ　扇鈴亭
ちうひぐきつく生る小ぬ　百人

柳葉のちぶと古紙の蔵て　呉橋宮
十分ちめしこのれう古の入　杉門

似顔画の似ぬ所ゝ　清谷亭
あつむ一ゝの秋川ゝ　笑丸

市川の由来ゝ下ゝ待りて　七珍舎
まゝ〳〵ひいき連中の玉　萬寶

天狗が仮面何子　何百人　太平堂
きつるゝ中ゝ白ゝ　鼓腹

歌をのきてい きつれ一句生
人よえらぶ ちつる鳥ちせ　橘香亭笑顔

せんぐんの三条あひの角うつ
内うちまてもきやうらん　岩井有常

鼻つまむ ちせいあ ふ秋玉い
業及ふてもかるくちまし　羽金鉄人

五地の神代ハ市川の
五代七代つきぬうちちせ　若葉加吉

兵庫ハ水の箱限よ
江戸源氏の粕ちをいのれ　大倉金湯

又ちちんあるうち十系系
の世もつづく筋ちの白のちち　大形揖光

[illegible]の名をたづねのわたり
[illegible]ゆかしく　　夏山[illegible]

才牛の山にはいまだ[illegible]
絵師も笠木の名を清七　　永楽通寶

約人うるのふ評判ふ
まことに海老てらいつ[illegible]　　月三金　約人

光琳又拾ふよ香もたかく　　清風亭
アハきぶもちゐれ梅もまつ咲　　いさご

ゑひ彩の名をうつ飯の出世程　　二見亭
大いに酒のうゐれかるもせ　　吸方

よそのと秋も鳥のはまはよ　　秋光
こゝよもちくら川井の物ゝ紅　　杨梁

市川の家形さそくへ代目　夷曲亭

くくり目録一すの絵　酒船

元禄の千両役者今ハ市川

六ろうにまひいきなれ　錦花金坊

市川七世狂言年代記

談洲楼撰

抑歌舞妓の濫觴ハ我朝神代之俳優を根元ストス

脱ス 永録 年中名古屋山三郎と云者出雲のお國と

共ニ謀て哥舞妓をそめ是神楽を変化して

妓女を初て舞見妓女のなす所おもしろ毛を

出國哥舞妓と号く文録 慶長 よりこのかた

二代目市川團蔵山三郎と共ニ居興行毛を世ニ

お江戸舞妓とゝ号ひ傾ゝ男女立合の狂言

[illegible]元和年中女舞子[illegible]
[illegible]の姫と猿[illegible]の道順[illegible]中村勘三郎の
元祖[illegible]ふるの名人にて初て太鼓矢倉[illegible]
時よ寛永元甲子の春二月十五日中橋ふれ[illegible]
初て芝居[illegible]あり[illegible]十年芝居の人形所よ
うり能の間イ狂言を[illegible]
漏ばりにて役者[illegible]
[illegible]拭をかぶりしをそれ[illegible]延宝ふいりて今の

狂言[illegible]市川團十郎三ヶの津乃立役の團[illegible]ふて
下総の国佐倉の住人幡谷村一本曲堀越伊兵衛男
初名を海老蔵といふ名人とゝ[illegible]
志保[illegible]推[illegible]本姓麿の門[illegible]
俳名を[illegible]ふ[illegible]人[illegible]年初めて[illegible]十郎と[illegible]
かきしゝ元禄六年の四場[illegible]百人一首[illegible]
狂云[illegible]事といふを[illegible]延宝三[illegible]我[illegible]
初て勤む[illegible]八[illegible]不破伴[illegible]と勤[illegible]享[illegible]小

[illegible]

元禄 二年より女形紫雲[illegible]と
掛[illegible]と云[illegible]元禄七甲戌[illegible]

京都へ登り支牛四季の句あり

法廣[illegible]油をかもし花の風　支牛

鳶帽子若[illegible]遠[illegible]草いきれ

かくれあり秋波蒙の虎ごせん

志のこつを里の床のきりぎし

元禄十年丁丑[illegible]京都村山平太郎[illegible]

正月羽[illegible]中村[illegible]大福帳綴[illegible]

稽古[illegible]京都[illegible]絶[illegible]て大太刀を帯し大[illegible]

文字のせりふおよハ[illegible]平[illegible]大南[illegible]傾城

玉匠君よ[illegible]と[illegible]の役[illegible]中[illegible]

同十七年春[illegible]合十二[illegible]の[illegible]小二月十九日[illegible]

[illegible]薩[illegible]入則法名を

門叢入室覺榮信士

二代目團十郎

初名九蔵後海老蔵と号役者の氏神と敬はれあり

元禄十年九蔵八歳にして初舞台兵根元曽我に

親子十郎五郎にて所の原大あらし九蔵八遍力

坊にて山伏の出市川家にて逸川合にて見ハおすもの

團十郎伜九蔵と中まるの口上まより十ヶ年後の

うち日もとりつゝ不及高麗唐土にて名人

事奇なるかふ妙なるる見まことよ盛田山石動

明王の実ぐんいちまとて家名を成田屋とい

同名家名より山村氏出て二月信田和名

の玉より千形先生家うつき小歌崩よ志ぐの

伝まくこの名古屋辰の友大日本源恩

仏人よ蔵乳の子帝自人ゼ中村座金平六條

通よ伎童丸自見世葛城景紙の戦よ丹波の

勘太郎七月高級矢市の伏二人矢芝大南

新人世兵衛天地人間寿小和泉の小波帝史より

布樹をの白見世よ源氏六十帖子源太荒毛元源十七章
申二月新年より別れて六月まで体三年号改り
宝永元年七月木挽所山村長太夫立ふて国十帝と改
文清伝右川合ふて迫善の口上絵上下神代
ぬ〜も〜〜〜各代を平あ塚拾宝八力のゆくを附
宝井其角迫善の句〜〜
ぬつとの母は父と長柄の雉子の声
ちとの四芝居ふて立あゆ〜〜その出こゝろとのあり

せり出有〜がいつとの〜樹りよ世の秋傾城雲雀山小
久兼の八帝の役艾賣ふて国十〜艾のちふ見江戸舞
艾の姫〜国ふ〜〜の物云「正徳」三年冨月花舘
老僕樹よ加六の役七月若光雅波池よ本田〜光の
役大常十八頃国十五日の出ふて年二十六ゆ七其頃
ふてあるもん国十〜其角のもとまで〜〜附晋子の云
今月ふ唐ふて八鐘旭の画像を門よ張〜〜や我朝
ふて六ふとの舞蹈の有さあを画て今月門沈ふ

悪魔降伏鬼を拉へ分香包を開き治命仏の如く
筆を取て達磨の大きなるを画き其賛曰

そこふ国十郎や鬼をゑ　其角

誠よ雪子の南竟師めとゝ
ときこそかこの今七代よ及ぶ扶る国お長寿也
あるゝ扱年七月之吉日　光護寺住持
俗門寿十年ゝ中村氏　万民大福時よ家後
初の暫親父逝去の日上赤春坂東　寿我よ五郎

歳元傍のおみてとゝ浄苗沢住言の評判江戸中隠れなく
尺る人間人おゝ前代ゝあ
申春弐礼和尚ゝ江戸吉太夫上ゝ伊六大あゝ
享保　二ゝ酉の春海乃棟上曽我よ夫人男房令文七
白ゝ人七歩苗発奉納太平記よ篠塚ゝ天地人間寺のゝふ
戌の春若源勢ゝ乗ゝ大南り白見世中村氏嫁入
伊豆白紀川津のゝの中ゝ又地のゝ伝ゝ佐の川
万葉猪の上ゝ南力れの編め大南り　五月　藤原和尚

煙を夢忠七ふゝ久松ゝゝそ冬の異見のせりふ大出来
白ゝんせ中村座ゝゝ坂の城落巣籠関東下ゝ六ゝて橋ゝ
のせり取寅春大電商賣我ゝ浜屋辰ゝ踊ゝの詰
出て生酔の出ゝの東海ゝ神奈川ゝ子見ゝ次ゝ三作ゝ
両人羽子板破魔弓ゝ合のせりふ同八年卯の春
曽我暦問ゝ歩ゝゝ門太ゝ水上蝶の羽つゝひとゝふ
海面ゝ浜ゝの東勢む切ゝ蓬ゝ長屋ゝ出船ゝ
海ゝゝて古今の大あゝり此二月十日元祖猿ゝ

勢ゝゝ百ゝ忠太平の御川とゝ蓬ゝ
勢又四ゝ廣治九右ゝ蓬ゝ三日の間ゝ
月九辰ゝ入紀角四ゝ月ゝ辰ゝ
山中平九ゝ死ゝ月ゝ己春紀王伊豆記直ゝ
月十ゝ春門松四天王元祖ゝ長廣
名古屋ゝ体ゝ宗ゝ山ゝて草辰ゝの火消ゝ土来春
文耶宗ゝ十ゝ女人ゝ身ゝの雅子のせりふ大消ゝ見世
八棟太平記ゝ楠長盛ゝて子息ゝ未来記

讀〻〻不我藝を傳授す思人の評判也門十四回春初
失の根本〻大帝聖成年元禄十七回忌父の遺とゝ集を
出し門人池潛作池十の文よあ宿のいくらく日本
市川流十〻とゝ力者ゆゝや中兼あて高弘東洲よ志
画を特事りて又作りと長崎より文通也と見ハ失の根
文帝の事句〻〻又此時池十句よ

加茂礼手向ゆ　摘し蛍ゆ自生　湖十

扨実の春傾城福寿名古屋より年玉賣のもりふ此時蕪と恋　桂

城ゆて初て三間の清各古屋山三宗十〻の書
八実ゆ大岩廣沼三郎役を掘大河〻〻〻〻
春十八云今掘もゝよゆ宗此時大坂表より
尾三度下り国十〻口を以国つゝ〻る別
京の相云事さし大あ〻〻〻卯月廿日より
廿十云病九ゆて生居を引く本復し下春月
市村座出市川　蔦蔵と改名一子弟あ〻を今
国十云と改杉本七義を幸治〻と改　先代同

辰の年に国富太平記書国の兼好元祖三十三年追善
帆柱古平記鼎の籠塚に時に未春羽生村与右衛門
後に京清水寺やぶり大あり法樹太平記関羽
曙首戦と平家蟹大吉来る 寛保 と改る号
海老蔵京平と大坂に光り名ごり狂言不動と
光深国吉月台大坂伝後藤長治庄右衛門国太平記
畑六郎左衛門ねらう妻大あり極月十日の八的勢
首取る十郎兵衛ふあり初しが成正月十六日より

当神ふじ子小山稲の大あり久米吉浮世と唱神上人の役
大坂京勢内吉之助吉右衛門人形で東いろ
ていとりとり八七月まての大入潮月六日伯耆
金海氏一百体小外のとき八文字屋自碩浮世記
有り十月十又日分早今冨京清兵衛見物をうる
四郎かごぜ赤ちゃとなを変へ三の四の秋月十六日
高位の神妹脊渡七位下の役九月分名張狂言東山
殿旭朝と体芸と三文国さと三八さ行渡の浦ノ

びんぐう三の津に外のとくもあるも
あるべきの評判なるに仁木ぜんぜうちあくあひその後
男ものがおんを学行のひとをもて仁木をつき通し家も
おくれとなるべし かくて九世の財おく病ものあるもあれど
あるべき家に九世が謀だやしのこれ記書にゆしの関羽の
関羽 あるべきの家に後世の家に世まりの家の
家くすりうい陣太平記に細六下たの二さんめ孫塚角のう
ゆくるの後財家太夫海家後相手のあ家引くく書

御旅の通り御義もまひ強家の通り御もあるまま家ね関十郎
おまえまする近と海老義まさ十とと二後くのひとのは 延喜二
世春第くを乃成るの財文字太夫か賀太夫一日暮り
海老義門完度沿無書あてひの栗あ海おあの隈紀
大菊り大入 寛延 二年伊六大のりあるよ寛延之庚
午のくー唐の商船長崎に来の時諸葛孔明の志流
ときくー諸葛白器といの者幅を尺半横六尺半の
白絹地に柏葉を頌する文を賜る文字凡八百三十字

法師始獲沉草亭幅を尺二寸横四尺七寸の白紙に文字
夏四百字書之今馬場に蔵す柏莚之其角又
治徳の門に拝し俳諧をこのみ狂歌を御秀選の
中うと武尺八を稽古し幽玄の旅行の
時探幽の新蒐の画をうけて柏莚
つのもうの空をさしぬのしらら
とゝまるあんのうをつあとぐ
更より雄山集清水あるじ夜人をやめく所
早高雄の山を分るとて法師ゝ柏莚
龍宝をふりかへりの時八ものふまの高雄さんを
更より年号宝暦八寅の九月廿四日
法師書柏莚随性信士と戒名の時
ほいよ法のとゝ義て其海苑のはのうをとゝ極楽の外
延享より宝暦までの當り狂歌集に中す宝暦
四戌年中村座百千鳥回傳蔦我失の根葛帰八文字屋
其者て失の根花と云ふ義を建る氏家乃世話者人

園十郎の名を團十郎と改める同六子
年市村座澤瀉今を橘源氏絵尽
を勇び銀杏板

改名を祝し上方の上を飛脚　鹿馬時改
白狐あらさる白拍子の孫　大和上吉
雖然も園十郎ホ成田己　芳町改　壺博士
きめさてもらいホ動かぬ人

市川七世

賀見

砂邑亭文好

もろもろの
國土帝の
就見世を
一日に
あらはしまもる

式例和曽我　日充

二代め

先祖の就をも
今めけ間う浮世
あらん事を

花月菴黒人

代代の就をも海老も
出江戸の
いつざまもの
者よ親王乃
かぶりと
人形

顔見勢賀

三升とて世話女房の市川八百蔵　一陽亭　柳和

くるわなき江戸の光と千寿流　通牛　文馬

天下市川つづもなれ

○あぐくの一まくはへ

先祖伝よりの画のくるわ

宮戸と赤めうさりもめの息　身居　清長

三年代つれもたれ

○

大入百ぶんはの風三枡なる

てくどこうく一の親玉　家満

ひのきすくの人と神田の氏子者

四十年もたで代

ぶんくの分酒のつき宮りの

なくとくどこ四十くもの

高砂くのまま男のもくを

つれもたもすくこうかか

みよりの神も初風も松の稚

鼻ぶくひまくもくあ親玉

○

ひ上の　まぐくもつくこ　警　馬逸

切幕　窓のとはまあ　の梅　花郷

八橋太平記　中村座

信太の丘狐を引き寄せ
白糸と雪馬を中に心中を
多胡もゆるす源もおわさん
七世までも続きぬる上戸
のへて色まん金のちくさん

俳名
富寿
薄川
八重成

祇高大見世曽我　同座

白糸のまつ孫のまどこ迄も
かゆみに訴へとゝ評判
口上をきうんと耳を塞ぬまの
ゐ[illegible]ものゝ大人

都歌
義和丸

本四楼
要賀

市川のまつのすの角の
まきてよ訪ひ花のたゝ面

十寸雀亭
雷声

さん寿小粉ことゝ十ゝの
悪う〳〵敵ゆ〳〵ひ

仙路亭
芦翠

米のゝえの原の流れ市川や
なう〳〵世の孫を舞ひ迄さ

小金舎
百馬

[illegible]

馬三亭 富長

東南西 北平

霍青樵 英卜

豊年亭 田右嘉

十月の国十亭成讃

浅草氏塔を

[illegible]

又名をうる紀国十の寸ヲ

白猿口上
三升改名

みはしよりそこすれば芝雖館 長雄

ゑ枝花さく ぢうロ上

○

いり豆よ花の口上 花樹堂 三掉

こ清すゝ あまれ寿のゑず

市川の孔を鎌ほ本かうく 知波 空成

花の兄イが 梅乃 白兎世

世々白もゝ世孫ふひきゆきて　谷弥壽　滝鯉

園十帝の乱ろすじくに

改名の今に日本市川雪ノ　綿丸

ゆゝしき成田わたくらの泉の世

萬天子園十帝の名をあげる　勇悠館　有義

冊〻三年乃　欲わ家雀

泉涌の親のいとふも

ムりまゝふか　芝楽亭　慈悲成

私もはゝの代ゝ思ひが

なゝ〻橋川　記ねまゝ

三代目　園十帝

初メ德毋と京吏より外ゝ名のる　[享保]十三申の

初年義祖父京吏ゝ六年と云　二十五年忌迫ゝ云ゝ

申村発ゝ名ゝ八株太平記横ゝつゝの中ゝ市し坊ゝ

力成ゝ切大人刀ゝ少ゝ　大河ゝ　[享保]十六　亥年

長柳延市村発の勧ゝ　しゝ人世の物来ゝ海ゝ中村

発名ゝ　相ゝ名代大浪香巣　京流ゝ二ゝ　柏延ゝ

の間より高鳴ゝ　姫方ゝ　ぐんぶの湯ゝ　敵を延ゝ

京流人形細工のこのめん汲者尚字名不詳のせりふ
斗りにて大ひらり大入まとり市村座にて享保十八年月
英介名古屋乳井二番目元禄忠臣蔵白酒賣せりふ
けせりふ日本中を西へとうとう河岸享保二十年御
国千石と改名して花橘栄源氏と高間の与市猫橋
大平記弁慶五番目篠塚みちの寺毛ハ親父波され
萬民大福帳のうあて大ひらり 元文 五年申の良乃世
大坂くのぼり志の塚のゆくまぐ乗ハのうしやのや洋別も

あるとき湖十日はかり乗こ毒を動病を出ての為江戸へ
波られ翌二年二月廿七日 陸誉覚性と名のる僧を西方
蓮華の産へ書をもたらす八江戸中ひろまるの為沢元ま
柏莚の書う書う大のうあ沢文の俳りふ吹とのへも山海を
蹲られ心まるを民法〳〵筆を取りて
梅花ふ之称の何のうきり〳〵 柏莚
けて句のうちよ悲哀を千万のおとをとをハの風なれ
板印代月学宮八 享保 四辛年の春西座を傾城

上京の頃は松平七郎と云分次の居て打の中より出ひずず
初年義元は時只今の御代の御判を渡女敢を渡され

享保 二十年卯の春元祖と云て無尽と云悪ぎで今の
巖柳島の大師の下り秋田城の物の大工東谷法印と出世渡され

宝暦 巳成年の夏巳三浦大物武門の時柏莚歩子と
申り国主と敬意宗代国者倒の春ぶく夏の春帰輝夏
紀尾麻子松竹梅土者の信国秋信国長者松小山の
別宮と云ふ寄ふ和義の大あり国奥巳世結西八郎

為朝少て柏莚長者訳長云法妻人力競子新月
柳門梨来板と子おわ〜と忠文すと奏の
又郎八実八右馬の柳門七夜の大ゆり世春
日本悦弱の高為我と京清と清玄申うえ
女形少て二人り浅日文字太夫浄瑠璃
冨士ふと用〜すぐの石俗切こがい骨の石俗
ゆりて大尚り聖堂時清風入私為我こ義と
京清沖和九年巳三年大あり良巳世木毎の

荒相生神の末に甲賀三郎と云ふて源左衛門の
都に住市村殺お國深出世舞踊より荒獅子
男之助卯夏初買和田嘉兵衛民部之助実ハ
京清ひめん病死の五月二ぢん目ゆゑ義経
古今の大入辰の六月吾妻百年桂市川中二郎の
浪奥に住梅若丸伊達の大関より三浦平太夫
巳の刻に住申村定目お荒刈友景貞忠信と
おさんぢ源八会清大法百合の八郎ゆて勢のお

大内ゆり千春吾我ひるまき二年橋ゑを沢八幡と助と
京の次郎の中文字太夫清ゆりゆてこるらいしの
不能大お来末の春百千ゑ大磯通ゑ丹波の助太郎
若松の京清大内ゆり秋狂ゑ百沢ゑ源倉通ゑ
三浦の与大お来末の奥不世大夫ゑ鎌実記ゑ
こちゆの文義ゑ所鳴の新大内ゆり中の妻人実ゑ
春吾吾乱こちゆ夢長藤実ハ京清ゆて清ゑの
の巳丑瓦大内ゆり

昭和 二年 国の友忠兵義小

[illegible]
八幡殿大神宮朱戌の春往[illegible]
今宮と伊達の与作子息幸吉[illegible]
[illegible]の所大[illegible]
京清水寺[illegible]
則若松殿といふ[illegible]
[illegible]代[illegible]の大神宮朱大[illegible]
[illegible]国十[illegible]

有[illegible]大入大[illegible]
高子の秋天竺徳兵衛古郷の[illegible]
大出来世の春先護の若松と京清水と奴清平の後
[illegible]世常花栄許の本[illegible]
春濃ぶ池面新[illegible]
大[illegible]世[illegible]の春[illegible]
[illegible]の名をあつり自分八元の松[illegible]幸吉[illegible]
[illegible]山[illegible]の[illegible]実八長田の太[illegible]

明之卯の白月世俵の荒小野の交点と又代三宮大内より

安永 元辰の白月世大濱海老明篠塚に海老義改

市子より諸藩（幸四郎の名を濱り已の白月世ひさき

勸進帳と弁慶の相の平次二郎と名八幡宮あて

大内より末の加賀月世市村座新太平記と題生

志のつ畑より出て中の春菓の湯の魚清月秋

菅原伝授と松王丸大内より大入此狂言を一世代

本場浪花にて此言葉皆浪人上方の蓋をのこし

顔見勢賀

義経の箱が座附口上二番 十文 乗名 三牽

義経を二升の内より

白川子のもふせをもせめて 唐橋 和足

四十帝ゆかりも所成

○

いかに〳〵ここ大將の四十郎 勝川 春英

今も狂言よみうりにて

嗚呼つゞのもなれ元もある 勝川

うば子そこふこそ也四十 春德

顔見勢　大當

改名

国十郎年とゝきけもとゝしの　三人菴　二鷹

ゆのゝ面あてゝ者めゝ拍ぶゝを

血すじとゝ氏を二つゝ刻海老　紀伊国屋

大江戸中丸もゝ引ゝの

同じゝ百濤の秋まち

門内ゝ行ゝまゝを来ゝ

乙鯉は我木一丸のゝ人のゝ　武蔵家　權三

いつでゝ鯉ゝ御用有ゝ

市川の流ゝ八つゝ七ゝ五ゝの　秋風亭　稲葉

糸ゝ通ゝ風ゝ玉の口上

白猪をみんなゝ来ゝ丸んぜんゝ　折目　角住

実市川の市を寄ゝ人

○

名ゝとゝに開ゝや乳の花梅　金紅

七代目の市川十郎ゝ　一陽亭　秀湖

天ゝ天下ゝ者ゝ代ゝ十

○

この人もゝ人ゝ者ゝ冥ゝ　東海道　早文

三国一の者ゝ邪ゝ

大銀杏榮景清　同座

百千島大磯海道　同座

十萬の
國千年を
壽

やごとなく
おぢいさんでも
たれさんでも
つぐもあれ

千里亭　數風

白髭五百才の仙宮ゆきの
さるのよ遊び知る七世の孫に遇て
名家の秘密を彼と弁ず侍ふ
こゝ劉阮の玉兎の如ふ
こゝ婦人の赤絲の男子あり

紀姫人

まこゝ
國十五才七月　日　孫

人事多吾多我　円座

極帰錦仕貌　円座

市川の蓋風連綿としてよく家名
を[illegible]　吾友軒来人
仙境より宇宙[illegible]市川の
七世の[illegible]初い顔

風の画三体式　世間亭改
[illegible]　鴻鵠齋　堅廣

桃李菴　花蹊

[illegible]
[illegible]

常盤春那衣名我　市村座

雪伊豆幡揚

桐座

市川海老蔵の
自慢の芸
御ひいきの
桂屋長綱
江戸
久米吉浮正

五代目　市川團十郎
後嗣義白猿　今藤四郎兵衛号

極ゑ代目團十郎　南時ひいきの親玉市川ゑ代のあん
ちゃ八代人ゑ成るとの評判初名を幸蔵とて　宝暦　四
代春百千名曲物者我よむさ〜ゝ出られぶ初メへ
門弟ゑ世名音四郎ゑ成るねら〜賣の中ゝ大ゆり
明和七寅のゝ〜弟ゑ世名堂十郎ゑ成鶴の表浪杏の
白ゝ絵井太郎ゑ吉例の春ゝ〜ゝ二ゝんめ尾形ゑ二ゑ

ともよ大ゆう寺聖卯の兵乙世菁替月も吉京荒祈子
男て物中暫〳〵地ゞく谷のよ〳〵ちん梅津のちん三毋く
大ゆう寺表田産近年の大入とゝ評判まち作〳〵
南り狂言ハいづもち毒ゆ中乳ゞ名れゞ男名く 安永二
己中材産與乙世四晨夏勧進帳鮭丹太良富樓左
大ゆう寺午の與乙産表田産一ノ富醤の新乙世よ
おさんぢう浪末ゞ末表ほうらい者乳よ祐純
国ゞあゞ九三毋〳〵大南り與乙世酒乙ちんの器産と

梅ひ浦ひゆゞ太突八幸雪九大京東申與乙世市村産
吳茶屋雪の乳ゞさん水やゆゞ五代ゞ名国春彦譜春
羽長男我ゞ京浦外ゝ漢の漁沖うとゝ突京の次乳ゞ
東みゞ八百芳三人のなま毋乙大ゆう寺與乙世中村産
梅門魁の初中ゞ加義ゞ浦府と忠文梅門の三毋く成の秋
伊達阿國ゆゞき ゆう 粉子男物湖八勝元大京東角
男ゞ世表田産伊達綿 紺の弓乳ゞ村表ほゞく秀蔵
清ゞ寺ゆう八太京國ゞ三の役不員の史泥の文ゞ

とりふ大夫宋大はうり美女を世中村座帰花英雄

太平記と志のつのわざと茶しき書ゆたつか山田太郎

三浦ゆう天とくちよりいろくの物を奪ひ大はうり子

九月尾上菊ゆう市村座ともあ合八有て引きもきをを

二ハ作世話ふて中村座へ入九月より出茂田ゆうを物こ

菊ゆう大はうり国十ゆハ年茂ゆて為ん や新皮ともこ二ゆく

大はうり菊ゆう京坂へ上ゆうよつき名誉和会の大はうり

三作ゆうをゆくとゆるゆを京大坂芝居ふて梅幸ゆとゆ

踊ゆうセーゆく京大坂ゆも国十名を実美しく茶屋の

のうえん一めん三作をつゆ市しゆくあ永九子年四月世

はなの帰錦性魂ゆ上流のゆうを光おれのすじゆ伝こ

朔とうろうを持て書伸茂六郎市名義為八名為新

出ゆのまく大はうり付ゆうし表田座へはうし雑物下り

長セ唱のゆく変扇のゆ二踊り意女房ゆ逸平ゆの作

二ゆく大はうりひ時三作のゆとゆ

はうりゆく江戸絵の数ゆ多く椿　眠柳

中おり来れを「新うく世わたるの」嵐八ひのそらの三升
元来ひなの助実父なりし小六八 延享 二寅とし一の点を世
中村座へ下り二代目柏莚と俳諧の交をとり柏莚
小六の俳名を雛助と付ル此時悔嵐ら六才なり
小六大坂へ連れて来り十一月の時ろの俳名のよろこを
もつて雛助（ひなすけ）と改メ宝暦元来の新月三升大ゐ社
初舞台に出る是迄の関西の大ぶたのとゆるされた
意十日ゑ等ゑていうへを踏り時の紋を

かくのごとく所ゑ事ゑ江戸ふみよんとろ
中村座おて四月中ゑ月ゑ江ふ江ぶんとむろ〜せ〜〜
扨また 安永 十巳の春中村座ゑ〜曲輪通ひ小町
百我かうわらう費矣の根ゑ百ひや〜ぶんと〜百世
四天王虫百の名七綿小金寿保昌と〜の春粧ひ
百乗ゑ助六大あ〜り仕方清釈ゑ名古や山三
郎のゑる江戸の花三升をゑ祐経地ゑ堂下
十会清兵衛の六帝ゑげ達ゑ月まで尚つけ

辰のとる筆姫勸進帳小熊井太郎の誓く
この月ゑを大商内蛭がこ清よ又の入口地ぐ谷
清左つ坊と実ハ門覺上人三月より百乳
娘長者こすまつ孫園子鬼王巳の春初花
二株ゑどよ京の八幡ゑおらふしの正作ハ
紅葉ぐされ〜をうんるが如し　兵見芳桐庭
男山振神源氏よ三田の源吉ゑ〜京の仲光
午郎ゑ世むつの花伊達の羽上こ白林

だゝア小條時政の早こうり未秋天ぢく徳三清
月京ゑ世佐の源吉つ清ゑ高六郎ゑそま世郎
弟こ恋女うどう紀大あこり多氏長澤の画所
蘭別とい少人高ゑ〜の画よ唐人竹里賛也
をひわこよりり園十良人おくる申のとり江戸
窓・私園十良異貢とゑ本馬馬著速入間春
布村ゑ仮名書房我よ河ゑ入ゑ歳素の中〜ゑて
大吉来六月ゑ長遠釈ゑ国良こ物大河ゑ興世

花の江戸の門松、炭、うるしなどみな
友為十郎夫人大でき成ハ多し河原崎座ハ勧進帳
熊井太郎の暫国三年ぶり見世園十郎を作
清元栄三郎ゆづり枝いざこ鶴と子名ハ改鶴蔵と
書く名人上手に毛ぶり三筋たらぬとのぞけの口上
能名も白猿ふ山時ふ顔馬馬面人かく御江戸
のかざり鶴ふ女を著述て見見芝原家の
角行に源谷の今五郎平蔵子裏江戸子そぶり

浅草の小梅大工藤治郎二世くの仕方古今の大事条目月
妹脊山婦七大尚り巴春海西湖角力と多情浅
長兵衛岩戸鬼王姫小松三重盛寛政浮世絵
いざりき生涯実ち良門寅年陸奥育に仕あぶん正
とう婆や三枚卯吉相撲中地石川五右衛門浮世絵
福桂舟老ぶ初代地て清吉ちく幸四郎三人の
出人名山知恵代之子夫と偶し浮世絵 寛政 八年辰
泉世中村元清和二代大尚源氏と雄氷の宝光と四国の

修行者突八幡宮門大浩山焼化既大入之時分社会
一世代　おーまつ時ちりてこそ世の常なれ　花も見るれば　白猿
則三郎の組入とのよ狂舞集ひ来りおよそ白猿
七度と改め世を牛活に用者一月毎を変じて光陰を
送る時に年の春月中村勘兵衛市座侍者百連有穴岩井
市也席表人かくよ寄りて寄せすべ座附の口上を
おもいのまかくて生日毎狂舞一首口上斗り

極月十二日まで大入に付白猿一首といふ集ひ来る人
かくよ二代目猿雖助変成十来年毎月十日ばかり
市村座下り秋田城之助に大当り大入にいわ一の
よしこのれと白猿まつ人七父の事を振り新れの
国を治ひ成田屋といてる赤色を白猿業に筆を染
成田屋をおく原狂舞

府市川白猿

郡ゝ所ゝ所しの大ゝ人を二筋大よ叶ふ繁昌

水の恩思へは尊ひ沙門

眠獅

申ノ長暦卿出門ス三の相ノ家門ス大南りこの時白猿の
位をる五百歳(元)尋常りて祈らりたづさへる宝物
たべのしるるこれ物めを者りる白猿ふくまをとりて
二のつりり又しめりこれ物とて
つくまはよりの御ぞ雛助白猿
一度ひを位せりこのもりて白猿春も立秋も
来きし左ひ弁将堂千命こ別れ永く京名の猿ん
るをこのり十七歳市孫海光義を今七世の国十名と
改ふる先祖の百年の寿をあるようつしに良ん世

七小町の姿おいおぼる浦のうの夜ノ夢こ重国十帰と
変人をおもよ面の修行者実ハ大伴の心を少て白猿
せり出しこ三度所ロ上まじ又西のんをを流し
大洋到大入ありり滅ん面向不肖の親玉ぎよ代上心者ぎ
初六代目国十帰ハ天明二寅の年春中村座に七学
粧首我こ少年ぬ外市川徳義とて初舞春尾上松助
朝ひ系少て懐ぐり(出)仲義ロ上ロ国十名悼ぎの川合世
産尚の所化せんぐんの二系と評判せり新ぐん世ぐり

海老蔵と改め三郎兵三年曽我と系図一子いなず丸門弟居
あり天保大商門蛭ヶ小路に名乗り文政己巳年春鬼王一子
乙市の母〜同七未歳章蔵と大ぼう丸兵ヶ崎桐屋
八ッの花嫁に小係天女丸同八申年春名乗をゆずりて
らう貴同九酉年仮名五郎に小林の新丸の後
門太郎義方法 寛政元酉八月 傾城かるたぎこ新兵衛の
ぞくのまただて物の母〜同二戌新乙姫河原崎座
とび蛍子貴実八出る蛍の森三太門三実の良見世

金剛丸〜源内の前狂言時間十[illegible]名[illegible]実国の
与市の母〜伊蔵九郎門[illegible]
三太力丸〜ひるり大蔵門[illegible]子春若成実
江戸ッ子男乳よと〜ゲ乗ちどりとくのみの助坊
近江の小蔵丸実八茶汲十郎こん姫人大こく
森よりもよせもちうくんの心ちち大出来門狩味者
山ヶ久新之助門兵ヶ姫小金菊伊達の太木ヶ也国の
修行者実八武義丸紋章の源門文也年 近江源氏

四の天六百四六年寅の春初瞬兵乱世前乱に伊豆の江戸
四郎の人世相屋敷江戸の磯に新羅三郎の渡河七郎ノ
春田鶴の花見に小田原十郎門兵衛世都座中く
帰花雪も義経と熊井太郎中て初る暫尚年続く
十八才成のとしも十八才の自作のつゝね大評判
大入四八辰年の春吉柳前乱に園三郎二番目神田の
きましいさゝの十二郎く力屋第七四兵衛清和二代
大当源氏と源の新光三郎く大宅の光盛擬の評判

おれの一本こゝ成まさうりを持山ゞつの出大ゞつり代時
鶴義一世一代こ四九己春吉例前乱に百姓観音の十云清
実八京清一子あぎ九こ大日だ夕秋ゞをこ寄し糸ゞつ
ゆ七曙のゞのろし代所親父の西新ものまゝの大評判
四六月大塔の天ときき義人四十年午の春京初ゞゞ
天石時京江戸子十太顔討深分を縁こ奴逆平反程云
千本桜こ波海屋源平いゞこの檜太横川のかくもん
二番目本所乃ゞ朱の顔ゞく追古今の大入大評判

同八月入道信田の出来秋に七郎四郎同兵衛尉と称
言語のみ多況に去の塚伊賀守の
此國の住人志賀八長崎次郎大蔵大入道時
ゆえ産業と成り家代々をんとう月十一日春大三浦
伊達の根引に荒郷子男を助各代のんどん一人画て
出られども江戸伸の法よく三月の助六の大蔵もをん
何をしても評判よりしが買方を長義の物
大きく文言ゆく面勤メ同のこゝろとして

引しが寛政十二未年月十日六ハいのよ初巳三年の菖蒲
太刀と一面を生れ流ひのきのおしいのでこうり生
廿二年ゆえ芝常照院に皆誉自到本利と唐
殘す滅中程云奇滅小三仏宗の因源と八代十年
七代目園十郎
抽七代目園十郎八寅政六甲寅の秋市村座へ出勤矢口
渡に新田徒蔵九のゆく巳戌ゆえ初年義へ市川彩之助と
いう同寛世源宗滅の産ゆえ女楠より八文の文郎春長例ひがぶ

[illegible]より松東[illegible]
東門喜六十代帝 朱雀院[illegible]八辰春水[illegible]伐[illegible]軍[illegible]
雪[illegible]見源[illegible]弟[illegible]初[illegible]
改[illegible]
午春六代[illegible]
[illegible]
四十二南年[illegible]園平良[illegible]
十[illegible]

頻伽八郎[illegible]

[illegible]と諸人の大評判[illegible]
[illegible]月七代目園平良と改名して[illegible]
[illegible]
[illegible]
義[illegible]連中[illegible]

[illegible]の[illegible]

妙妙妙妙[illegible]
[illegible]

[illegible]撰芳志

春英画

四国の修行者
こえハ大伴山主
市川白猿
たんあやこ姫
てるこ
七代目
市川團十郎
ごたい三郎女ぶく 稲のそ
市川筆之丞

千秋菴
三陀羅法師
浦安ぶく
稲の女房
ちゆりや七世の
孫乃彩子姫

なが年養三方の芝居ニ三番のえん主有り
千代万代のこまぶくしとの方ハほうらい山
俳諧一万一神一万年を万有をはらの方タ
長者の鉢ニふく〳〵万歳をうたふて幕ぬき

東方さく
一三千年ゐる花さ咲実のる桃浦治ぶくを箱ゆ入仕と
うたひ祝ふ毛ぶ汚きだ亦
黒
一うらくるくさきの二本をひんぬすんでうんおすれいそねと
ろ祝やくそくいあつといつて流せぶよ さおいとつらんぶく
年の豆西の海ほうアとむぞうれだと思ふてつぶもおい

東方
一そこのいてとふせ

南
一波ヤアぶんト 足ゆ乱てかぶるおき上ゑ思ふと
赤方をハの花ぶくうア
一親ぶくこふもあろふう

万葉をかぶつくしさ市川の
代くつぶく 鼻はしらおど

鈍々亭
和樽

白糸ゞ水の太尾ひゐ垂〜て　琴斜　佐十
紀ゑや　ゝん百年めゐ〜
藤袋ゝう海ゝ拾ゝ　ゝうなぞゝより　崑亭　東士
すじくゝまとれるはゝ江戸芳
三拝ゝ紙ゝものぼりゝ出世鯉　網代　守人
なをゝゝゝゝゝゝてひれ泳ゝ
白糸ゞむゝしゝ嘴のいゝほゝや　本草舎　盛芳
素袍の柿ゝ稱ゝゝの海
金糸ゞこのむゝゝむゝゝゝの百ゝを
ゝゝりてゝうのゝゝとゝゝれ　千文桂

百ゝすの間はちゝゝゝ市川の　至極　康凡
間ゝゝれゝめ乃ゝひゝて多ゝ八
このゝゝりゝゝゝ踊ゝ儀の大ゝ
風ゞて役者の袴ゝゝゝゝ　高根　常雪
百ゝゝゝゝゝゝゝ役ゝゝ　山平　坂人
おゝゝのゝゝゝの筋ゝゝゝ
高ゝゝゝゝゝゝゝ素袍の柿の袴　昌平　外澄
涼く紅葉の百年忘ハ
ほの文字ゝれゝゝ市川ゝ　袖香樓　床壺
役ゝゝゝの役ゝ

[illegible]ひて陸市川や　宝亭　蓑尤
見も代く桑高なれど　芦　斤成
[illegible]
日本[illegible]みるほむ[illegible]
浮世[illegible]の[illegible]角[illegible]　御代　道有
見[illegible]の[illegible]紙ふて
春[illegible]一刻　價千文　後者
大江戸の[illegible]
名[illegible]の[illegible]　葱　真友
京[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]

節分の大入[illegible]をつ[illegible]　花本　根尤
三[illegible]ゆつぶなれども
[illegible]の[illegible]の[illegible]
今に役者の[illegible]　悠々館　待人
[illegible]代[illegible]の春　酒　藏人
英[illegible]
[illegible]　長閑　春道
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]百年
百[illegible]の振[illegible]や　五石亭　積尤
[illegible]

柏莚が名も百とせの世とふれて
ちゝの初メ世を稽がつゝまて　豊事成

遊客と酒の酒すなる本の猿
詩百酒百やめぐる日ふ　能府亭一曲

浦浦が七世の孫ゝ遠ふ絶と
なんと苔いどやごさりはぬう　定木直成

亮も如此の緒も宋を山うゝや
おれひとりどやといまれもとし　不二見亭高住

白猿とさぞめつゝ苔を山ぐゝ
なるもとせの山ゝ年かハ　同文曉

[illegible]の数とりなれや百とせの　正梅亭芳輔
十まひとつもたれこゝふ

そりてふれもめる月日も百とせふ　嘉千勝山人
ゆゝる後者の数隙の翁とせ

市川文牛史の百とせの蔭ハ
桃古ゝのむらし巡せて今ほる
白猿の言名ゝ日ゝ一のきゝ
宗子らりなをとゝ物こゝ
吹角酒——と

白猿ハ新墨る雲[illegible]とそ　蘭大者亭香保留
百さんまそもつく衆ぐゝ

小枝とて花てゝ咲れぬ三ぢのうハ　子日　松日子
ものみてゝからくひゝ市川

○

十世孫はるゝ七世の評判ハ　山川　甚幸
ハ拍子をきらつのゝ

白髪ゝ六十二歳七八分へ　北齋　辰政
吃々十分んん　新見勝の入

十七ゝ後若ゝ帰の大尚也　川原　亀面
富々ん の價ひきらん

○

顔見世芝居や孫ゝ教式花菜子　山東　京傳

初雪を三株ゝ巨燵ぬ　ア庵連　呉桜樹
あゝてゝぬといふ事ハ　ひのゝ
評判のよいゝ　今　千々婦
国の春弱いさむ　新見勝

○

都ハ無ハ人まます　今　窓ハ　あらの去
もこのハ迄まいまの三株

○

ハ人もの設若ゝをはめて　山唐　里人
千世もの事も若葉の付字

○

白髪を泥花ゝとおもや祝賀　今　正直徳成改　平　昇成
花の三株ゝ咲ゝ咲場寿

市川の小流れつきせず鳴咽行くもの、
かくの如きを見るにつけ法華経
押合ふ土手の柳つるれば小枝育の
河原の子連中たれらしのさるものかくへや
者よ実のなり成果をもとめ寄
よく祖父さまの二帝神のけきあるを家
みなすの紋家の風きくかくぼくん
ひくき者る証價の玉を第七世の孫の点を拭
浦洗ふくぬ向の浦の張屋乃くあり
ほきいそくかよなん

一声に羽をのす千代の鶴ひしい
大名はぐとの風忘ぐ

淺草菴

宵さくぐ乱れす群の紋身を　玉　數成
ゆ〻しく浦なりも出る白糸
海老花して家平帝と成寛い　花落亭　一口
七代くの産のしらの根
皇相姫しく立て沙乱ぐ　関　荒垣
うぶすかぐ〻やてつぐとなん
市川の名也いつこもひくくん　吉備　高峯
こゝも三年のそのみとて
人心表の海めれはうあく　上毛白雲連　黒生菴　仲見
こゝ海すよ花のさうくへ紀

弟も細工の世話にて相中へ
のこりてそうもどんより
弟も出れたこと迄
墨壺をひいきせ墨さしの所作

政名の三絃もて
家のさし物や　物琴　喜丸
針で姫の門つま
庭のしらべ　様

かなれた三絃もてうと七曲の　皷漫菴　音芳
四ツ目なるなすひの有れなる
市川の表れかの矣筒うん　雀壓　永喜
初舞臺のしゐりくせ
顔分屯の上浄瑠璃をする門前
富士よりも高い沒八山ぬし　下ヵ佐倉　櫻下堂　市成
見賀連所先の眼ゆも繞ふ
ゆんゆんする江戸のまれるの　カナ川　新柳亭　壽磨
小粒でも唐草繞の白ふん
引抜のめ三絃ぐ名高く　右恒

足袋をかんく眼遣ひなく
ゆくりのつゞく三絃ゝ雲　宮住（竹枝文 奥海堂）

替歌の雑巾名代の向ふ酒　鬼糊亭
うまく尚る孫よ祖父義
滝ふ親今江出世の三絃と　大夏 墨塗
孫今きへこの浮世千両
親孝と名をとる家の祖父様よ　汨林亭
乳母と酒を孫の牡丹
組入の三絃と名をもつ家　金竜菴 市住
海老とたいく産沢の様

十本ゆるく三味と成名淋。
せんだんの三絃 蕎の上乃
俗ふあゝ後ゞ

子供でも国を守る帝れ一ぶくみ
あらおそろしみなん中や帝も

古今此序ふこてんの
名人これをんと号るまた
をよるゝ

有賀亭 琴成

顔見世芝居のあり様 安角猿の
尚そくで沒るもとれ例歳へ

七里此仮ふ形もあり鯨　渡船

富貴と名ふあやかんを牡丹扇獅

雲霞や中ゆとして松の大文字　選羅
天の月は見と大きはらうる　盧笑
歌の人麻呂巣鶴の雪は下白服　亀幸
宝塔やいかるとて紅梅　路考
名は古代沈丁七草の雪ぬ　初朝
紅雪や外は鳥なきさえぬ　訥子
鶯や車輪の如し　歌の雪　三朝
今紅の雪名の雪を掬ひつとり　梅我

[illegible]の[illegible]の[illegible]　三牽

除夜酒（つまん梅の[illegible]）　薪水

[illegible]す七世の門やの[illegible]　中車

七曲の水簡清し　巨撰

いさ[illegible]市の組入[illegible]　新車

[illegible]の海や[illegible]　市紅

[illegible]の[illegible]はひろい[illegible]　扇蝶

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　馬十

[illegible]ある七世の[illegible]を[illegible]

打ぬ合を[illegible]ぶん　錦外

[illegible]の親子[illegible]

市川の[illegible]　眠獅

[illegible]

[illegible]　なゝ女

○我子のいとけなきうつくしさ
聞て言と名のるうつくしさ
心うれしう有るうつくしさ

御影奥殿千年を経て初深雪　女　春曙
雪よりも深し五百の人の恩　玉穂
雪ふりてひゝくや今の寒梅　英旭
天地人のめぐみをうけて
名をつけ給ふ人の宝　女　茶山
仕舞お園の春遠ふ
同じ心を抜ひゝ
お園のひゝく恵や神乗月　茶外

十ヲ斗ヲ屋くつゞくや寒梅　不泥
新神楽の夢覚ル太刀　柘車
市中は寒声消て焼負　松國
年経や都を桂丹の神乗柳子　團他
これも井ゝ深根代著薄袋　珍外
名ひす濃名ゝ千金の價ゝ　徳行
都貝無ゝ神ゝ弁ゝ人の山　錦家
出別深の狂根使や豆雅子　鬼童

宮椿雪におれめ風情ゝうふ　久幸
雨風や振袖ゝゝのの人礫　櫻山
待ゝや舞ゝる〳〵と有車　雛象
宮の紅粉花や鹿ゝ習ふ　森藏
大吉刀の反り冴ぐ雪の笑ひ　豊藏
○
青燒り雪七ナ夜の色侍ん　幸治
戸張しの力紙うつし神酒の口　門喬
這登風海老もこのごり枝炭　七五三助

市茅の園十帛おとしの海老　文来菴 雪嵩
宮参を吹切る時の鬼ハ外　寸松庵 白麻
汁粥や志ゝ根ふつのむ男の様　葉雪菴 千心
市の海老抱れつぼを拾ふる　言外菴 他笠
○
つゞらしな沢人よ七ナ里寒り鯨　鬼太郎 布谷

此秋芭蕉菴少年
布谷画し替の
讃成ぬ　雪中菴

太刀風や待の熟柿十ばゝり　完来

おくがひねきの紀年小玉
江戸より君ゝ[illegible]ふよ
百余里爲ぶら極老の為を　浪花　大江丸
ゆつだ

津の國けなふをやも色のつ

○
ちゝひ古ひ乳名を詠て
七世連弾ゝる
四月の清姫子花章より抜
送らせもらまふハ海とを
有このゝ[illegible]しとゝやいとん　冥加とゝやゝん

名ものとも[illegible]に風いて赤色物　三升

跋

市川團十郎ハ當代七世此狂玉桂。
墨川淡海樓ハ當時一人の清書者。
清書俳優ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の。
[illegible]の[illegible]馬縫屋之助[illegible]ハ諸禮
太平記[illegible]の太平樂[illegible]

江戸ッ子はかぜうこの国こゝのよたとの
加賀藩の金はは宋ちかぢ世孫と
話しこ升ほ絞りあてときくあのまよれて
ずどの意気揚こ十ッて十一ぐ鐘て茹つ
ホとうこつ チョイくと葛飾ちこ思ふ
ゝゝ

四方歌垣主人志願